

2026（令和8）年度
自己推薦入試
課外活動推薦入試
卒業生子女・弟妹入試
[外国語学部]
小論文問題

注意

- 1 開始の合図があるまでは、開かないこと。試験時間は六〇分である。
- 2 黒色鉛筆を使用すること。
- 3 解答用紙の所定欄に、氏名・受験番号を記入すること。
- 4 縦書きにすること。
- 5 下書きには、この用紙の余白を使用すること。
- 6 書き損じても、解答用紙は再交付しない。
- 7 この用紙は、試験終了後に回収しない。

解答要領

解答は問題文中の設問の指示に従って、解答欄に適切に書くこと。
なお、句読点・かっこなども字数に加える。また、段落の初めの空きや、段落の終わりの行にできた空きも、書いてあるものとみなし、字数に加える。

以下の文章は、現代アートの表現と鑑賞においていかに「問い」が大切な役割を占めるかを、iPhoneを具体例に挙げて説明している。文章を読んで設問に答えなさい。

イノベーションの例として引き合いに出される米国アップル社のiPhoneにも、私は画期的な「問い」があったと思つてい
ます。この製品が登場する前から、スマートフォンと呼ばれる機器はありました。しかし、iPhoneが登場すると、それまで
の携帯電話市場のシェア分布が大きく変わり、発売以降、アップル社が今も多くのシェアを占めています。

あの小さな機器に多くの人たちの心を揺さぶる何かがあったのでしょうか。それはいったい何なのか。便利さや機能性だけで
はない何かがあったのです。私に言わせれば、それは「問い」のようなものだと思います。問題解決から始まる何かではなく、
今の社会や私たちに対する「問い」から生まれた何かがあるのか。それは例えば「人が情報をパーソナルに身にまとう
て発信するようになったら世界はどのようになるのか」という問いだったのかもしれない。そんな問いがiPhoneにあつた
ように私は感じます。

今、情報がビジネスや金融と高度に結び付くことで、さまざまな業務や事業が合理化され最適化されています。今の社会は
「結果」や「効率」だけを単純に追い求め、「解決」ばかりを提供しようとしていないでしょうか。テレビを見ていても、「問
い」を投げかけて深く考えさせる番組はほとんどなく、いたるところで「解」を短時間で見せているだけに思えます。ア
ートのように深く感じさせて考えさせるものが世の中で少なくなっているような気がするのですが、イノベーションを生み出す
のは「問題解決」からではなく、「問い」なのではないかと思うのです。

(吉井仁実 「問い」から始めるアート思考」 光文社新書 2021年)

日本経済新聞社に無断で転載することを禁じる

設問 文章中の傍線部にある「アートのように深く感じさせて考えさせるもの」の意義について、文章で述べられたことを踏
まえながらあなたの意見を述べなさい。(601字以上800字以内)